



四日市市立大矢知興譲小学校
校長だより 11号 R8.8.19

「私が変われば子どもも変わる」

これまで2回にわたって、本校の1学期の学級づくりについて紹介してきました。私の心に残った報告があります。

ある先生は、子どもたちにこんなことを伝えたそうです。

自分の思い通りになるように相手を変えて、自分の「気」に入るようにするのはない。自分自身の「気」を広げることで、相手を変えさせることなく受け入れる。それも、学校に来る大きな「価値」の一つなのだ、と。

とても考えさせられる言葉です。

学校には、たくさんの子どもがいます。

話すことが好きな子もいれば、静かに過ごすことが好きな子もいます。すぐにできる子もいれば、時間をかけて取り組む子もいます。大勢で過ごすことが楽しい子もいれば、一人での時間を大切にする子もいます。

私たちは、ともすると「みんなと同じようにできること」を求めてしまいます。けれども、なかまづくりとは、誰かをみんなと同じにすることではないのだと思います。

「どうしてあの子はそうするのだろう」と考える。

「そんな思いがあったのか」と知る。

「自分とは違うけれど、それでもいい」と受け止める。

誰か一人だけが周りに合わせるのではなく、みんなが少しずつ自分の「気」を広げていく。そこに、本校が大切にしている「なかまづくり」があるのではないのでしょうか。

1学期の実践では、子どもたちだけでなく、先生たち自身も変わっていました。

- ・「こうさせなければ」と考えていた自分に気づいた先生
- ・子どもの行動だけを見ていたことを振り返った先生
- ・子どもを変えるのではなく、自分の声のかけ方を変えてみた先生
- ・「もっと子どもの思いを聴いてみよう」と考え直した先生

そうした教師の変化によって、子どもたちの姿にも少しずつ変化が生まれていました。

だからこそ、本校は「私が変われば子どもも変わる」という言葉を大切にしています。
これは、「教師が変われば、子どもを思い通りに変えられる」という意味ではありません。教師自身が子どもの見方を広げ、関わり方を変えることで、子どもが安心して自分らしくいられる環境をつくっていかう、という私たち自身への問いかけです。

学校は、国語や算数を学ぶだけの場所ではありません。自分とは違う人と出会い、その人の思いを知り、ときには悩みながら、ともに生きていくことを学ぶ場所でもあります。
子どもも、教師も、ともに学び、ともに変わっていく。そんな学校でありたいと思っています。

私たちがこれからも持続可能な社会を築いていくためには、その社会が民主的で平和的であることが欠かせません。そして、民主主義も平和も、ただ願っていれば続いていくものではないのだと思います。

自分とは違う考えに出会ったとき、相手を否定したり、自分の考えを押しつけたりするのではなく、まず相手の声に耳を傾ける。そして、自分の思いも伝え、対話を重ねながら、互いが納得できる道を探していく。そうした力を、私たち大人も子どもも身につけていく必要があります。

この3号でお伝えしてきた「なかまづくり」も、そこにつながっています。違いを知り、認め合い、困ったことがあれば話し合い、自分たちでよりよい関係をつくっていく。その小さな積み重ねは、民主的で平和な社会をつくる力の土台になるはずです。

平和は、遠いところにある大きな課題だけではありません。目の前にいる人と、対話を通してともに生きていこうとすること。その日々の営みの中から、平和はつくられていくのだと思います。

学校ホームページ「学校の様子」をよろしくお願いします！

学校ホームページ「学校の様子」から、いろいろな情報を発信しています。AI を使い、やさしい日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語版も添えています。「学校の様子」または「新着情報」からお入りください。



https://www.yokkaichi.ed.jp/~ohyachi/cms2/htdocs/?page_id=250

「興譲」は保護者のみなさまに Home & School で配信するとともに、地域のみなさまに向けて学校ホームページ「学校の様子」（上のリンク）でも発信しています。